
アンジェリーク | Zephel | 陽だまりの中で ~ zephel ~

翠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アンジェリーク―Zephe1―陽だまりの中で　　ゝ z e p h e
1ゝ

【Nコード】

N5857D

【作者名】

翠

【あらすじ】

【ゼフェル×リモージュ】飛空都市では女王試験が行われていた。そんななか、ゼフェルは、何にでも一生懸命な金の髪の女王候補のことが気になるようになっていた。

（前書き）

KOEIから発売されているネオロマンスゲームシリーズ「アンジェリーク」の二次創作です。

原作やキャラクターイメージを壊してしまうおそれがあります。また、ネタバレも含まれますので、それらを十分ご理解の上、ご覧いただけますと幸いです。

風に運ばれてきた花びらにキスをされてゼフェルはぼんやりと目を開けた。

ルビーのような瞳には流れる雲を抱いた青い空が映っている。緑の木々は風に吹かれて枝をゆらし、遠くからは水が落ちる音が聞こえてくる。

ゼフェルはボーっとしながら起き上がり、銀色の髪をかきあげ周りを見渡す。

ふと、身体を支えていた左手のそばに金の綿菓子が見えた。

思わずそれに手を伸ばしてみる。

手にふれた感触、それは綿菓子などではなくて……

「ん……」

金の綿菓子が寝返りをうち、こちらに顔を向けた。

(げっ！)

アンジェリーク！！

はつきりと覚醒したゼフェルは現状を把握しようと思死だった。
オレ何でここにいるんだ？

……えっと……オレは、徹夜続きで疲れてつから静かな森の湖で昼寝でもしようと思って来て、そのまま寝てたんだよな。

ゼフェルは長い指先で眉間を押さえながら空とにらめっこをする。

……うん、間違いねー。

で、こいつだよ。

ちらりと横で幸せそうに眠っている少女に視線を移した。

なんでこいつがここで寝てるんだ？

アンジェリーク・リモージュ。

まぶしいぐれーの金色の髪とでっけーエメラルド色の瞳を持つ女王候補。

こいつときたらよく泣くわ、笑うわ、ぶつかるわ、すっころぶわ、ドンくさいにもほどがあるっていうほどドジなヤツだよな。天然だしよ。

オレの一番苦手なタイプだ。どう扱っていいのさっぱりかわからねえ。

ゼフェルは大きく息を吐き出すと、立てた片膝に頬杖をついてアンジェリークについて考えてみた。

……でも、不思議とイヤじゃねー。

こいつが笑つてるとイヤな気はしねー。もっと笑顔を見ていたくなる。いつでも笑っているのを見ていたいと思う時もある。

でも、他のやつと一緒にいて楽しそうにしていると、なんかムカムカするからいじめたくなるんだけどな。

…… 幸せそうに寝てやがるな。

全然起きる様子のないアンジェリークにゼフェルはいたずら心が刺激され、一度は引つ込めた左手で金色の髪にふれ、指先でもてあそんでみる。

木漏れ日に照らされたそれは光り輝いてとてもきれいで、そのやわらかい感触と、ほのかな甘い香りはゼフェルを酔わせた。そつと手をすべらせてほんのりと赤みをおびた頬にふれると、操られるかのようにアンジェリークの頬に口づけた。

「ん……」

アンジェリークはかすかに身じろぎしたが、再び幸せそうに寝息をたてはじめた。

！！???

オレ、何をした!?

ゼフェルは我に返ると、自分のくちびるを腕でおさえながら呆然とアンジェリークを見つめた。

オレ、こいつに何をした!?

…… オレって、欲求不満だったのか?

自分の考えに思わずひざを抱えてうなだれる。

.....。

チツ、まあいいや。やつちまったもんは仕方ねー。

ゼフェルは開き直ると身体を起こし、楽しい夢をみているのか微笑みながら眠っているアンジェリークを見る。

……それにしてもこいつってほんとうにニブイな。普通、気がつかねーか？

もっといじめてやろうか。

不意に物騒な事を考えたゼフェルは眠っているアンジェリークの顔をはさむように両腕をおき、じっと見下ろしていたが、桜色の唇に吸い寄せられるように顔を近づけた……。

けれど、あまりに無防備なアンジェリークにそんな気も失せて、座りなおす。

ハッ、バカバカしい！　こんな子供みたいなヤツに何やってんだよ、オレも。

こんなドジでどんくさい女。

毒づいてはいたが、熟睡しているアンジェリークを見るその瞳は、ゼフェルを知っているものが見れば驚くほど優しいものだった。

アンジェリーク、おめーが起きたら聞きてーことがあるんだよ。

どうしてココに来たんだ？

どうしてオレの横で寝てんだ？

風が花の香りを運び、木漏れ日がきらきらと輝く森の中で、ゼフエルはいたずらっぱい微笑を浮かべながらいつまでもアンジェリークを見つめていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5857d/>

アンジェリーク | Zephel | 陽だまりの中で ~ zephel ~

2010年10月10日04時50分発行